永遠の真理

ETERNAL TRUTH

2013年 2月

「パートⅠ－贖罪の犠牲(Ⅱ)」「天のいと高きお三方」「サタンの驚くべき活動 - 降神術(心霊術)」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強
「パートI–贖罪の犠牲（II）」 4

朝のマナ
「天のいと高きお三方」 7
信仰によってわたしは生きる

現代の真理
「サタンの驚くべき活動 - 降神術（心霊術）」 36
最後の出来事

力を得るための食事
「豆乳プリン」 46

お話コーナー
「同時に、いたるところに」 48

教会

【正丸教会】

〒368-0071　埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1
電話：0494-22-0465
FAX：0494-26-5059

【高知集会所】

〒780-8015　高知県高知市百石町 1-17-2
電話：088-831-9535

【沖縄集会所】

〒905-2261　沖縄県名護市天仁屋 600-21
電話：0980-55-8136

アクセス

ホームページ：http://www.4angels.jp
メール：support@4angels.jp

発行日　2013 年 1 月 31 日
編集＆発行　SDA 改革運動日本ミッション
〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Getty Images on front cover;
HighRes on pages 8, 52

Printed in Japan

もし人々が神に屈服するならば

キリストを最も多く愛する者は最も多くよいことをする。自我を捨てて、聖霊が心に働かれる余地をつくり、神にまったく献身した生涯を送る者の有用さには限りがない。もし人々が、不平を言ったり、途中で弱ったりしないで、必要な訓練に耐えるなら、神は日々に、時々刻々に彼らを教えてくださる。神はご自分の恵みをあらわそうと熱望しておられる。もし神の民が障害をとり除くなら、神は人間という水路を通して救いの水の豊かな流れをそそがれる。もしいやしい身分の人たちを励まして彼らのできるよいことをさせるならば、またもし彼らの上にその熱意をおさえるような抑制の手がおかれないならば、いまキリストの働き人が一人しかいないところに百人の働き人がいるであろう。

もし人々が神に屈服するならば、神は彼らをそのままに受け入れて、ご自分の奉仕のために彼らを教育される。神のみたまが魂に受け入れられるとき、その魂のあらゆる才能がめざめさせられる。あますところなく神にささげられた心は、聖霊のみちびきのもとに、調和のとれた発達をとげ、神のご要求を理解しこれを果すように力づけられる。動揺しがちな弱い性格は、力強い、しっかりした性格に変えられる。ふだんの献身によって、イエスと弟子との間に密接な関係が結ばれ、そのクリスチャンは心と品性がキリストのようになる。キリストとつながることによって、彼はもっとはっきりした、もっと広い見解を持つようになる。彼の判断力はますます鋭くなり、その意見は一層つりあいのとれたものとなる。キリストのために役立ちたいと熱望する者は、義の太陽キリストのいのちを与える力によって活気づけられ、神の栄えのために豊かな実を結ぶことができる。(各時代の希望上巻 311, 312)

贖罪

パートⅠ－贖罪の犠牲（Ⅱ）

III. 贖罪の犠牲の必須条件である受肉

キリストは世界のために贖い代を支払うことによって、すなわち人性をお取りになることによってそれを買われた。このお方は捧げ物であられたばかりでなく、ご自身が捧げるお方であられた。このお方はご自分の神性を人性で覆い、自らご自分に人の性質をお取りになって、ご自身を贖い代として捧げることを可能にされた。（原稿 92, 1899）

天使たちのうちだれも人類のための保証人となることはできなかった。彼らの命は神のものであって、彼らはそれを明け渡すことができなかった。天使たちはみな従順のくびきを負っていた。彼らは全天の司令官であられるお方の使者に任命された者であった。しかし、キリストは神と等しくあられ、無限にして全能であられる。このお方は人間の自由のために贖い代を支払うことがおできになった。このお方は永遠にして自存の御子であられ、何のくびきももたらされていなかった。そして神が「わたしはだれをつかわそうか」とお尋ねになったときに、「ここにわたしがおります。おつかわしください」とお答えになることができた。このお方は自ら人の保証人となることを誓うことがおできになった。なぜなら、このお方は最高の御使が言えないことを言うことがおできになったからである―わたしは、わたし自身の命に対して力がある、すなわち「それを捨てる力があり、またそれを受ける力もある」。（ユース・インストラクター 1900 年 6 月 21 日）

人は人のために贖罪をなすことができなかった。その罪深く堕落した状態は、彼を不完全な捧げ物、すなわち堕落した以前のアダムより価値の劣る贖罪の犠牲とするのであった。神は人を完全でまっすぐな者に造られたが、その違反の後では、完全と無罪の状態におけるこのお方のように人に勝った価値のある捧げ物がなされないかぎり、人類のために神に受け入れられる犠牲はありえないのであった。

神の神聖な御子こそ、神の完全な律法の要求を完全に満たす十分な価値ある

唯一の犠牲であられた。御使たちは罪は無かったが、神の律法の価値に劣った。彼らは律法に従順であった。彼らはキリストの御旨を行い、このお方の御前に頭を垂れる使者であった。彼らは被造物であり、試験中の者であった。キリストには何の要求も課されていなかった。このお方にはご自分のいのちを捨てる力もあり、それをふたたび受ける力もあった。このお方には贖罪の働きを引き受けるための何の義務も負わされていなかった。それはこのお方の払われた自発的な犠牲であった。このお方の命は人をその堕落した状態から救出するのに十分な価値があった。(預言の霊 2 巻 (1877 年版) 9, 10)

IV. しみのないキリストは完全な捧げ物であられた

キリストはもしご自身がしみの無いお方でなければ、この働きを成し遂げることはおできにならなかったのである。ご自身が完全であられるお方だけが、同時に罪を担う者とまた罪を許す者になることがおできになる。このお方はご自分の贖われた者の会衆の前に彼らの罪を負われ、罪のしみのついた保証人として立っておられるが、このお方が負っておられるのは彼らの罪である。このお方の屈辱と苦悩の全生涯を通じて、すなわちこのお方がベツレヘムで幼児として生まれた時からカルバリの十字架にかけられ、宇宙をふるわせた「すべてが終わった」と声を上げて叫ばれた時まで、救い主は純潔でしみがなかった。(原稿 165, 1899 年)

キリストは罪のないお方であられた。さもなければ人の肉におけるこのお方の命と十字架上のこのお方の死は、罪人のための恵みを得るのに、他のだれかの死と全く同様に何の価値もなかったはずである。このお方は人性をご自身に取られたが、それは神格との結合に入れられた命であった。このお方は祭司としてもまた犠牲としてもご自分の命を捨てることがおできになった。このお方はご自身のうちに、命を捨てて、またそれを受ける力を持っておられた。このお方はご自身をしみのない神への捧げ物とされた。(原稿 92, 1899 年)

「すべてが終わった」との叫びを口にされたとき、キリストは闘いに勝ったことをご存じであった。道徳的勝利者として、このお方はとこしえの丘にご自分の旗を立てられた。天使たちの間に喜びがなかったであろうか。アダムのむすこや娘は、今やしみのない神の御子の功績をつかんで、キリストはわたしのために死なれた、

このお方はわたしの救い主である、と言わないであろうか。（原稿 111, 1897 年）

罪を負われるお方として、また祭司、神のみ前に人の代表者として、このお方〔キリスト〕は人類の命に入られ、わたしたちの肉と血を持っておられた。命は生きた活力のある血流のうちにあり、その血が世の命のために与えられた。キリストは十分な贖罪をなし、ご自分の命をわたしたちの贖い代として捧げられた。このお方は罪のしみなく生れたが、人類家族と同じようなありさまでこの世に来られた。このお方は体が似ているだけでなく、人間の性質を取り、人類の命にあずかるものとなられた。キリストご自身がお与えになった律法に従って、最も近い近親者によって剥奪された嗣業の贖い代が支払われた。イエス・キリストはご自分の王衣とご自分の王冠をぬいで、ご自分の神性を人性で覆われた。それは人類のための身代わりと保証人となるためであり、人性において死に、ご自分の死によって死の力を持つ者を滅ぼすためであった。このお方はこれを神としてなすことはおできにならなかった。人として来られることにより、キリストは死ぬことがおできになった。死によって、このお方は死に勝利された。キリストの死は、死の力を持つ者に死をもたらし、このお方を個人的な救い主として受けるすべての人のために墓の門を開いた。（手紙 97, 1898 年）

信仰によってわたしは生きる

The Faith I Live By

2月 「天のいと高きお三方」

わたしたちの愛する天父

「わたしたちには、父なる唯一の神のみがいますのである。万物はこの神から出て、わたしたちもこの神に帰する。また、唯一の主イエス・キリストのみがいますのである。万物はこの主により、わたしたちもこの主によっている。」(コリント第一8:6)

神はわたしたちの優しい、憐れみ深い御父であられる。そして、信じる子らは皆、このお方の特別の保護の対象である。(原稿 153、1903 年)

彼〔イエス〕は宇宙の支配者である神を、「われらの父」という新しい名前で聴衆にさし示された。(祝福の山 91)

神に向かい、また人の前で用いるこの父よという呼び名は、わたしたちの神に対する愛と信頼のしるしであると同時に、神のわたしたちに対する保護と、神とわたしたちとの関係を保証するものである。わたしたちが、神の恵みや祝福を求めるときにこう呼びかけることは、神の耳に音楽のようにひびくのである。……

わたしたちは、子供が地上の親を信頼する以上の強い信頼感をもって神に信頼するようにと、神は招いておられる。親は子供を愛する。しかし、神の愛は、人間の愛がとうてい及び得ないほど大きく、広く、深いものである。それは測りしることができないものである。(キリストの実物教訓 118)

このような神の観念は聖書の宗教以外はどの宗教も世に与えたことがなかった。異教は、神を愛の対象としてではなく恐れの対象として見るように教える。つまり子供らに愛の賜物を惜しみなくお与えになる父としてではなく、犠牲をささげることによってなだめられる悪意をもった神であると示すのである。……

わたしたちが神の家族の一員であることを証明するものは、この世の地位でも生まれでも国籍でも、あるいは宗教上 ,,. の恩典でもなく、それは愛―全人類を包容する愛―である。……感謝の気持ちのない者や悪しき者に親切を尽くし、何も当てにしないで善をなすこと―これが天の王家の紋章であり、いと高き者の子らがその高い身分を明らかにする確かなしるしである。(祝福の山 91 〜 93)

神の大権と偉大さ

「主よ、大いなることと、力と、栄光と、勝利と、威光とはあなたのものです。天にあるもの、地にあるものも皆あなたのものです。主よ、国もまたあなたのものです。あなたは万有のかしらとして、あがめられます。」(歴代志上 29:11)

神は、わたしたちを子供として愛し、わたしたちのために配慮されるわれらの父である。神はまた、宇宙の偉大な王でもあられる。(祝福の山 134)

神と、神のみ手のわざによって造られたものとを比較することはできない。これらは、単に地上のものであり、人の罪のゆえに神の呪いの下に苦しんでいる。地上の事柄で御父を言い表すことはできない。御父はかたちをとって神格の徳が満ちみちているお方であり、死すべき人間の目で見ることはできない。(伝道 614)

神がご自分の威光を覆っておられる幕をわたしたちが僭越な手で引き上げてはならない。使徒は「そのさばきは極めがたく、その道は測りがたい」と叫んでいる (ローマ 11:33)。神の力が隠され、神が神秘と薄暗がりの壮厳な雲の中に包まれておられるのは、神の憐れみの証拠である。なぜなら、聖なるお方のご臨在を隠している幕を引き上げるのは死に価するからである。有限な者の心は大能のお方がお住みになり、み働きをなさる場所の秘密を洞察することはできない。わたしたちに対する神のなさることと、啓示するにふさわしいと神が思われる以上のことをなさるその動機をわたしたちは理解することができない。神はすべてを公平に命令なさるのであるから、わたしたちは不満を示したり、不信の念を抱くのではなく、敬虔な服従する気持ちでひざまずくべきである。神は、わたしたちにとって知ることが益になるときはご目的をわたしたちに明らかになさるのであるから、それ以上に関しては、全能のお方のみ手を信頼し、愛で満たされたみ心を信じなければならない。(教会への証 5 巻 301, 302)

エホバの神は、すべての知恵と真理と知識の源泉であられる。……人はただその広大無辺な岸辺をただよい、想像力を飛び立たせることができるだけである。有限な人間は、神の深い事柄を推し測ることはできない。(SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E.G. ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]6 巻 1079)

神への真の崇敬は神が無限に偉大なお方であることに気づき、そのご臨在を実感することにより鼓舞される。目に見えないお方へのこの意識により、どの心も深く感銘を与えられるべきである。(福音宣伝者 178)

個性を持たれる神

「神は、……この終わりの時には、御子によって、わたしたちに語られたのである。……御子は神の栄光の輝きであり、神の本質の真の姿であって、その力ある言葉をもって万物を保っておられる。そして罪のきよめのわざをなし終えてから、いと高き所にいます大能者の右に、座につかれたのである。」(ヘブル 1:1 〜 3)

神は霊であるが、しかし形のある実在者である。神は自らを形あるものとして示されている。(ﾐﾆｽﾄﾘｰ・ｵﾌﾞ・ﾋｰﾘﾝｸﾞ 385)

神は有形の実在者たる神としてご自身を御子の中にあらわされた。父の栄光の輝きであり、「神の本質の真の姿」であるイエスは実在者である救い主としてこの世に来られた (ヘブル 1:3)。彼は個性を持たれる救い主として天にのぼり、個性を持たれる救い主としてとりなしておられる。(同上 393)

わたしは御座を見た。そして、その上に父なる神と御子が座っておられた。わたしは、イエスのお顔をじっと見つめて、彼の美しい姿を賛美した。わたしは、父なる神のお姿を見ることはできなかった。それは、栄光に輝く雲が、神をおおっていたからである。わたしは、父なる神が、イエスご自身と同じような姿をしておられるかを、イエスにたずねた。イエスは、同じ姿であると言われた。しかし、わたしは、その姿を見ることができなかった。「もしあなたが神のお姿の栄光を見たならば、生きていることはできない」とイエスが言われたからである。(初代文集 124)

神とは自然界にみなぎっている霊的実体であるという説が聖書を信ずると称している多くの人に受けいれられているが、この説は外見がどんなに美しく見えても最も危険な欺瞞である。……もしも神が全自然にみちている一つの霊的実体であるならば、キリストは万人に宿ることになり、人間がきよくなるためにはただ自分の中にある力を発達させればよいことになる。

このような説を論理的につきつめて行くと、それはキリスト教の制度をことごとく一掃してしまうことになる。贖罪の必要はなくなり、人間は自分の救い主となる。神に関するこうした理論は神のみ言葉を無効とし、この説を受け入れる人はついに聖書全体を作り話と見るにいたる誘惑の大きな危険の中にいるのである。……

神のみ言葉の中に与えられている神に関する黙示は、わたしたちの研究のためにあるもので、これを理解しようと努力してよいものである。しかし、その限界を越えて、推測に走ってはならない。神の性質に関して憶測に疲れはてるまで最高度に知能を労したところでこのような努力はむだである。……だれも神の性質に関して思索をほしいままにしてはならない。このことについては沈黙が雄弁である。全知の神は議論されるべきおかたではない。(ﾐﾆｽﾄﾘｰ・ｵﾌﾞ・ﾋｰﾘﾝｸﾞ 404 〜 406)

そのみ名は聖にしておそれおおい

「主はその民にあがないを施し、その契約をとこしえに立てられた。そのみ名は聖にして、おそれおおい。」(詩篇 111：9)

決して神の称号や名称を軽々しく取り扱ってはならない。……天使たちも神のみ前では顔をおおうのである。ケルビムや輝く聖なるセラピムも、厳粛な崇敬の念をもってそのみ座に近づくのである。まして、わたしたちのような有限で罪深い者は、いかにうやうやしい態度をもってわたしたちの造り主なる主のみ前に出なければならないことであろう。(祝福の山 133)

わたしは、神の聖なるみ名は、尊敬と畏敬の念をもって用いなければならないことを見た。(初代文集 227)

ある者は、普通の態度で神に祈るのは謙遜を表すことになると考える。……彼らは恐れおおくも聖なる言葉である「全能の神」という言葉を祈りの中で不必要にまた不敬にも混ぜて神を冒涜する。この言葉は畏敬の念を持ち、抑えた口調で話す以外決して口にしてはならないのである。(福音宣伝者 176)

神の偉大さと威光を自覚する者は、聖なる恐れをいだきつつ、その御名を口にするのである。神は、近づくことができない光の中に住んでおられる。彼を見たものは、だれも生きていることはできない。(初代文集 228)

もしキリストが今日地上におられて、「師」とか「尊師」とかいうような名称をもった人たちにかこまれておられたら、「あなたがたは教師と呼ばれてはならない。あなたがたの教師はただひとり、すなわちキリストである」とのことばをくりかえされはしないだろうか (マタイ 23:10)。聖書は神について「そのみ名は聖にして、おそれおおい」と宣言している (詩篇 111:9)。どんな人間にこのような名称がふさわしいだろうか。この名称に示されている知恵と義をあらわしている人がどんなに少ないことだろう。この名称を帯びている者の中には、神のみ名と品性について誤った印象を与えている者がどんなに多いことだろう。ああ、高位の聖職者の縫い取りされた衣の下には、世俗的な野心と専制と最も卑劣な罪がかくされていることがどんなにしばしばあることだろう。(各時代の希望下巻 65)

「主の名」は「あわれみあり、恵みあり、怒ることおそく、いつくしみとまことの豊かなる……悪と、とがと、罪とをゆるす者」である (出エジプト 34:5 ～ 7)。キリストの教会について、「その名は、『主はわれわれの正義』ととなえられる」と書かれている (エレミヤ 33:16)。この名は、キリストに従うすべての者に与えられる。(祝福の山 133)

忠実にして真実

「主なるわたしは変わることがない。それゆえ、ヤコブの子らよ、あなたがたは滅ぼされない。」（マラキ 3:6）

神の個性と大権に関して、神がどこにおられるか、また神は何であられるかということは、わたしたちがあえて触れるべきではない主題である。……日々の生活の中で神と密接な交わりを持ち、神についての深い知識を持っている者は、創造主を説明するには人間は全く無力であることを、この上なく鋭敏に悟っている。……

神は常に存在しておられる。このお方は偉大なる「わたしは有る」というお方である。詩篇記者は「山がまだ生まれず、あなたがまだ地と世界とを造られなかったとき、とこしえからとこしえまで、あなたは神でいらせられる」と断言している（詩篇 90:2）。神は永遠に存在しておられる崇高な、また高遠なお方であられる。「主なるわたしは変わることがない」と仰せられるのである。神には変化や回転の影はない。彼は「きのうも、きょうも、いつまでも変わることがない」（ヘブル 13:8）。神は無限のお方であり、遍在なさるお方である。わたしたちの言葉で神の偉大さや権威を表現することはできない。（医事伝道 92）

神はそうぞうしいこの世界の上に王として君臨なさっている。神の目には万事が一目瞭然としており、偉大なる、静寂な永遠のかなたから最善とみられるところを命令されるのである。（ﾐﾆｽﾄﾘｰ・ｵﾌﾞ・ﾋｰﾘﾝｸﾞ 391）

神はご自分の方法とみ働きに対し理由を説明なさるおつもりはない。今はご目的を隠しておかれることがご自身の栄光のためなのである。しかしこれらの方法やみ働きについては少しずつ、その真の重要さを含んだまま明らかにされてゆくであろう。このように隠されている部分はあっても、神の大いなる愛、ご自分の子らに対するすべての基礎となっている恩愛を神は隠してはおられない。（あがない 101）

御座の周りにある虹は神が変わらないお方であるという保証である。……わたしたちは神に対して罪を犯し、神の恩恵を受けるにふさわしくない者である。けれども神は御自ら、「み名のためにわれわれを捨てないで下さい。あなたの栄えある位をはずかしめないで下さい。あなたがわれわれにお立てになった契約を覚えて、それを破らないで下さい」（エレミヤ 14:21）という、この上なく素晴らしい嘆願をわたしたちの唇に入れてくださった。自分の無価値と罪とを告白するため、わたしたちが神のもとに来るとき、このお方はわたしたちの叫びに心を留めると御自ら堅く約束しておられる。神の御座の栄誉は、わたしたちに対するみ言葉の成就にかかっている。（教会への証 8 巻 23）

表わされた神の素晴らしい愛

「わたしたちが神の子と呼ばれるためには、どんなに大きな愛を父から賜ったことか、よく考えてみなさい。わたしたちは、すでに神の子なのである。世がわたしたちを知らないのは、父を知らなかったからである。」（ヨハネ第一 3:1）

愛は天と地における神の統治の基礎をなす原則であって、この愛がクリスチャンの生活に織り込まれなければならない。……この気高い原則に感化された心は、あらゆる利己的な性質に勝るものとなる。（ﾕｰｽ・ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ 1897 年 6 月 10 日）

わたしたちが神の愛を表現しようと適切な言葉を探し求めるとき、この主題に対し、言葉があまりにも精彩がなく、弱々しく、また劣っていることが分かり、ペンを置いて、「ああ、筆で書き表わすことはできない」と言うのである。わたしたちはかの愛された弟子ヨハネが言ったように、「わたしたちが神の子と呼ばれるためには、どんなに大きな愛を父から賜ったことか、よく考えてみなさい。わたしたちはすでに神の子なのである」（ヨハネ第一 3:1）というのみである。そしてこの愛をいくらかでも描写しようとするときは、幼児が舌足らずで発音するようなものなのである。わたしたちは無言であがめることができる。なぜなら、このことにおいては沈黙こそ、雄弁だからである。この愛は表現しようとするすべての言葉の及ばないものである。（ｸﾘｽﾁｬﾝ教育の基礎 179,180）

人間の心の水路を通って、代々に受け継がれてきた父親の愛のすべて、また人の魂に湧き出ている優しい愛の泉のすべては、無限にして尽きることのない神の愛に比べるとき、広大な大海に注ぐ小さな細流にすぎない。舌はこの愛を言葉で述べることはできない。ペンはこの愛を表現することができない。あなたは日々の生活でこの愛を瞑想することができるであろうし、それを理解するために聖書を勤勉に調べることができる。また天におられる御父の愛と同情を悟ろうと努めることにより神があなたに与えてくださっているすべての力と能力を奮いたたせることができる。しかしまだそれを越えた無限の愛があるのである。あなたは長くこの愛を研究することはできるが、世のために御子を死に渡された神の愛の長さ、広さ、深さ、そして高さを決して充分に理解することはできない。永遠に研究しても充分に表わすことは不可能である。けれどもわたしたちが聖書を研究し、キリストの生涯と贖いの計画を瞑想するなら、これらの偉大な主題がわたしたちの理解力に対してますます明らかになる。（教会への証 5 巻 740）

そのすべての方法において完全

「それだから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい。」（マタイ 5:48）

神の働きはどんなに小さな部分も完全であるから全体としても完全である。神は世界の創造の時と同じ注意深さをもって草の葉を形づくられた。天父が完全であられるようにわたしたちも完全になりたいと望むならば、小事をなすことに忠実でなければならない。いやしくもなす価値のあることなら、りっぱになしなさい。（青年への使命 139）

神がご自分の子らに望まれる理想は、人間の最高の思いが達することができるよりももっと高い。……あがないの計画には、われわれをサタンの権力から完全にとり戻すことがもくろまれている。キリストは、悔い改めた魂を、いつでも罪からひき離される。主は、悪魔のわざを滅ぼすためにおいでになったのであって、すべての悔い改めた魂に聖霊を与え、罪を犯さないように道を備えられた。

一つの悪の行為に対して、誘惑者の力は言い訳にならない。サタンは、キリストに従うことを告白している人たちが、品性の欠陥についていいわけをするのを聞くとこおどりして喜ぶ。罪へいたらせるのはこのようないいわけである。罪を犯すことに言いわけはない。悔い改めて信ずるすべての神の子らは、聖なる気質を持ち、キリストのような生活にはいることができるのである。

クリスチャン品性の理想は、キリストに似ることである。人の子キリストが、その生活において完全であられたように、キリストに従う者も、その生活において完全でなければならない。……キリストは、わたしを信ずることによって、神のご品性の栄光に到達しなさいとわれわれに命じられる。（各時代の希望中巻 20，21）

均整のとれた美しい品性は、一つ一つの善なる行為によって出来上がるのである。たった一つの欠点も、これを克服しないで温存しておくと、それは人を不完全な者とし、聖なる都の門は彼に対して閉ざされる。……あがなわれた者の中には、欠点のある者はただのひとりもない。……

どんな働きも忠実になしなさい。……このように働くとき、神はあなたを嘉納し、いつかはキリストが、「良い忠実なしもべよ、よくやった」とあなたに言われる日がくる（マタイ 25:21）。（青年への使命 139，140）

人類への神の賜物

「神はそのひとり子を賜ったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。」（ヨハネ 3:16）

神は、死よりも強い愛をもって、地上の子らに思いをかけておられる。神がひとり子をお与えになったということは、全天をそそぎだして、一つの賜物として与えたということである。（キリストへの道 20）

この賜物を通して、エホバの神の恵みは日毎に尽きることなくわたしたちに流れ来ている。繊細な色合いや、かぐわしい香りのする草花の一つ一つがこの賜物であるキリストを通して、わたしたちを楽しませるために与えられている。太陽も月もこのお方によって造られた。天を飾る星で主がお造りにならなかったものはない。食卓にのぼる食物でわたしたちの生命維持のため、主が備えて下さらなかったものはない。これらすべてのものの上にキリストの名が記されている。これらすべてのものが言葉に言い尽くせない一つの賜物である神のひとり子を通してわたしたちに与えられているのである。これらの恵みがすべて神の造られたものへ注がれるようにとキリストは十字架にかかって下さった。（教会への証 8 巻 288）

救い主は、われわれの性質をおとりになることによって、決してたちきれることのないきずなでご自分を人類にむすびつけられた。永遠にわたってキリストはわれわれとつながっておられる。「神はそのひとり子を賜ったほどに、この世を愛して下さった」（ヨハネ 3:16）。われわれの罪を負い、われわれのいけにえとして死ぬために、神はみ子をお与えになっただけではない。神はみ子を堕落した人類にお与えになったのである。神は不変の平和のはからいを保証するために、ご自分のひとり子を与え人類家族の一人とならせ、永遠に人間の性質をみ子のうちに保たせられた。これこそ神がご自分のみ言葉を成就される保証である。「ひとりのみどり子がわれわれのために生まれた。ひとりの男の子がわれわれに与えられた。まつりごとはその肩にあり」（イザヤ 9:6）。神はみ子自身のうちに人間の性質をとり入れ、これを一番高い天にまで持ちつづけさせられた。……天は人間のうちに宿り、人間は限りない愛の神の胸に抱かれている。（各時代の希望上巻 11, 12）

キリストはご自身が神の御座へと高められ、座られるとき、ご自分を信じる者たちもご自分と共に御座に座ることができるようにと、くらべることのできないほどの謙遜に身を低くされた。（ｸﾘｽﾁｬﾝ教育の基礎 179）

御子のとこしえの先在性

「父よ、世が造られる前に、わたしがみそばで持っていた栄光で、今み前にわたしを輝かせて下さい。」（ヨハネ 17:5）

キリストは世界の基が据えられる前から御父と共におられたお方である。このお方は暗闇に輝く光であり、神聖な、そして最初の栄光でこの光をまばゆく輝かせる光である。（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E.G. ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]5 巻 1126）

キリストは先在のお方であり、独立して存在しておられる神の御子であられる。……キリストの先在に関して言うと、彼はいつごろか分からないほど古い時代のことを思い出しておられる。キリストはまた御父との緊密な交わりをなさらない時はなかったとわたしたちに保証しておられる。……

キリストの神聖なご生涯は、人間の計算ではかりしれない。キリストが人性をおとりになる前に存在なさったお方であるということは、被造物にははかりしれない。（伝道 615, 616）

キリストは本質において、また最高の意味において神であられる。このお方は永遠の昔から神と共におられ、永遠にほむべき万物の上にいます神であられる。主なるイエス・キリストは聖なる神の御子であって、永遠にはっきりとした個性を持ったお方であり、なおかつ御父と一つであられた。このお方は天のすぐれた栄光であって、天使たちの指揮官であり、彼らの敬愛する忠誠を当然のこととして受けておられた。（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E.G. ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]5 巻 1126）

キリストは神と同等であられ、無限のお方であって、全能であられた。（伝道 615）

しかしキリストは自らへりくだり、人性をおとりになった。人類家族の一員として、彼は死を免れなかった。しかし、神として、キリストは世に対する命の泉であられた。彼は聖なるお方として、死の手に抵抗し、死の支配を受けることを拒むこともおできになった。しかし、ご自分の生命を自発的に捧げられ、そうなさることにより、キリストは生命をお与えになり、不死を明るみに出されるのであった。彼は世の罪を負い、ご自分の聖なる魂に山のようにのしかかるその報いに耐えられた。彼は人が永遠に死ななくてもすむようにご自身の生命をお与えになった。キリストは強いられてではなく、ご自身の自由意志で亡くなってくださった。（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E.G. ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]5 巻 1127）

それゆえこの驚くべき神秘、キリストの受肉、彼のなさった贖罪はアダムのむすこ娘のすべてに伝えられなければならない。（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E.G. ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]6 巻 1082）

偉大な「わたしは有る」お方

「神はモーセに言われた、『わたしは、有って有る者』。また言われた、『イスラエルの人々にこう言いなさい、「わたしは有る」というかたが、わたしをあなたがたのところへつかわされました』と」。」（出エジプト 3:14）

キリストのうちには、借りたものでもなければ、ほかから由来したものでもない、本来の命がある。「御子を持つ者はいのちを持」つ（ヨハネ第一 5:12）。キリストの神性は、永遠の生命についての信者の確信である。（各時代の希望中巻 345, 346）

堕落した人間と天との交わりは、すべてキリストを通じて行われた。われわれの先祖に贖いの約束を与えたのは、神のみ子であった。家長たちにご自分をあらわされたのは、キリストであった。アダム……は福音を理解した。……

イエスは人間のかたちをとって地上に来られる前からご自分の民の光―世の光であられた。罪に覆われた世界の暗黒を貫いた最初の光はキリストから来たものであった。地上の住民に注がれた天の輝かしい光はすべて彼から来たのである。キリストは、贖罪の計画の中で、アルファであり、オメガであり―始めであり、終わりであられる。（人類のあけぼの上巻 434, 436）

ホレブ山のやぶの中から「わたしは、有って有る者。……イスラエルの人々にこう言いなさい、『「わたしは有る」というかたが、わたしをあなたがたのところへつかわされました』」とモーセに語られたのはキリストであった（出エジプト 3:14）。これはイスラエルの救済についての保証であった。だからキリストは、「しもべのかたち」をとっておでになったとき、ご自分を「わたしは有るという者」として宣言された。ベツレヘムの子、柔和で心のへりくだった救い主は、「肉において現れ」た神であった（テモテ第一 3:16）。（各時代の希望上巻 10）

何も知らないこの幼子は、約束の後裔で、エデンの門の最初の祭壇はこのおかたをさしていた。この幼子こそ平和を与えるおかた、シロであった。……これこそ預言者たちが長い間予言してきたおかたであった。彼は万国の民の願望であり、ダビデの祖先でありまた子孫であり、輝くあけの明星であった。（同上 40, 42）

イエスはまたわれわれにこう言われる、「わたしはよい羊飼いである」「わたしは生きたパンである」「わたしは道であり真理であり、命である」「わたしは天においても地においてもいっさいの権威を授けられた」（ヨハネ 10:11，6:51，14:6，マタイ 28:18）。わたしはすべての約束の保証である。わたしは実在する、恐れることはない。「神われらと共にいます」ということばは、われわれが罪から救われることについての保証であり、われわれが天の律法に従う力についての保証である。（同上 10）

創造主の受肉

「確かに偉大なのは、この信心の奥義である、『神は肉において現れ、霊において義とせられ、御使いたちに見られ、諸国民の間に伝えられ、世界の中で信じられ、栄光のうちに天に上げられた』。」（テモテ第一 3:16 英語訳）

キリストの受肉は、神秘中の神秘である。（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E.G. ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]6 巻 1082）

キリストは御父と共におられたお方であった。けれども……ご自分の意志で、神と等しい、誉れに満ちた地位から、降りてこられた。（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1895 年 7 月 4 日）

このお方は堕落した人類への愛の目的を成就することができるために、わたしたちの骨の骨、肉の肉となられた。（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1902 年 9 月 24 日）

キリストの神性とベツレヘムの飼い葉桶に寝ておられた無力な幼子とはなんと大きな相異があることか。力強い神と無力な子供の間の隔たりをわたしたちはどのように結びつけることができるであろうか。それでいて、彼の中に満ちみちている神性がそのまま形を取っており、世界の創造主が飼い葉桶の中におられる無力な幼子の内に表わされていた。どの天使よりもはるかに気高いお方であり、神性においても、栄光においても御父と同等であられるお方が人間の姿をおとりになったのである。神性と人性が神秘的に結合し、人と神とが一つになられた。（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E.G. ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]5 巻 1130）

アダムがエデンで罪を知らなかったときでさえ、神のみ子が人の性質をおとりになることは無限の屈辱に近かった。ところがイエスは、人類が四千年にわたる罪によって弱くなっていた時に人性をおとりになったのである。アダムのすべての子らと同じように、イエスは遺伝という大原則の作用の結果をお受けになった。そのような結果がどういうものであるかは、イエスのこの世の先祖たちの歴史に示されている。主は、われわれの苦悩と試みにあずかり、罪のない生活の模範をわれわれに示すために、このような遺伝をもっておいでになったのである。（各時代の希望上巻 35）

キリストにとって罪を犯すことは不可能であったと主張する人々は、キリストが本当に人間の性質をおとりになったということが信じられない。しかし、キリストは実際に荒野においてばかりでなく、子供時代から大人になるまで日々の生活でサタンの誘惑を受けておられたのではなかったであろうか。（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E.G. ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]5 巻 929）

救い主は、罪の負債ごと人性をおとりになった。彼は試みに負ける可能性のまま人間の性質をおとりになった。キリストが耐えられなかったことで、われわれの耐えねばならないことは何一つない。（各時代の希望上巻 125）

きずのない生涯

「わたしはもはや、あなたがたに、多くを語るまい。この世の君が来るからである。だが、彼はわたしに対して、なんの力もない。」（ヨハネ 14:30）

キリストの人性の完全な罪の無さに関して、わたしたちは少しの疑惑も抱くべきではない。（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E.G. ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]5 巻 1131）

このお方はわたしたちと同じ弱点を持つという点においては兄弟であられるが、情欲のようなものはもっておられない。罪のないお方として、キリストの性質は悪からは退いておられた。このお方は罪の世にあって魂の苦闘と苦悩に耐えられた。キリストの人性は祈りを必要とし、またこの祈りを特権ともなさった。（教会への証 2 巻 202）

キリストは罪を犯すことはおできになった。彼はまた堕落することもおできになった。しかしながら、一瞬間といえども、このお方の内に、悪への傾向はなかった。（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E.G. ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]5 巻 1128）

キリストはご自身に、堕落した状態にある人の性質を取られたが、その罪にわずかといえども関与なさることはなかった。キリストは人間が取り囲まれている弱点や欠点の下にあった。……このお方はわたしたちの弱さを思いやり、あらゆる点においてわたしたちと同じように誘惑に会われた。それでいながら、このお方は「罪を知らな」かった。キリストは「傷なく、しみもない」小羊であられた。サタンがほんのわずかでもキリストを罪に誘い込むことができたなら、彼は救い主のみ頭を砕いていたことであろう。実際には、サタンはキリストのかかとにふれただけであった。もしもキリストのみ頭にふれていたなら、人類の希望は消滅していたことであろう。神の怒りは、アダムに下ったように、キリストへ下ったことであろう。キリストと教会は希望のない状態になったことであろう。（同上 1131）

キリストは一瞬の思いにおいてすら、誘惑の力に屈することはできなかった。……キリストはご自身について「この世の君が来る。……だが彼はわたしに対して、なんの力もない」と宣言しておられる。（同上 7 巻 927）

イエスは敵がご自分を不信の泥沼に引きずりこんだり、失望と落胆のぬかるみに引き込んだりすることをお許しにならなかった。（同上）

キリストの人性は神性と結合しており、この力をもって、サタンがご自分に対してなし得る限りの誘惑をすべて耐えられた。そして、なおかつキリストの魂は罪に染まることはなかったのである。そしてキリストはご自分の品性の正しい特質を信仰によって受け入れるアダムのすべてのむすこ娘たちに、この打ち勝つ力を与えて下さるのである。（同上）

このお方はわたしたちのために死なれた

「しかし、まだ罪人であった時、わたしたちのためにキリストが死んで下さったことによって、神はわたしたちに対する愛を示されたのである。」（ローマ 5:8）

聖書を探求するにあたって、思いの前に絶えず保つべき、中心的な真理がある―それはキリスト、しかも十字架につけられたキリストである。その他の真理はこのテーマに相関して力と影響を与えられている。……罪によって麻痺した魂は、わたしたちの救いを立案してくださったお方により十字架上でなされたみ業を通してのみ命を授けていただける。（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E.G. ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]6 巻 1084）

キリストが頭を垂れて、死なれたとき、このお方はご自身と共に、サタンの王国の支柱を地に引き倒された。このお方は、サタンを打ち破られた。（同上 5 巻 1108）

天の軍勢は、キリストを救出することはできたが、このお方は十字架を甘受なさった。天使たちはキリストと共に苦しんだ。神ご自身がキリストと共に十字架にかかられた。なぜならキリストは御父と一体であられるからである。キリストを拒む者、このお方に自分を支配させない者は、サタンの支配のもとに自分を置き、彼の奴隷として、サタンの仕事をすることを選んでいるのである。それでもなおキリストは、彼らのためにカルバリーでご自分の命を捨てられた。（同上 1108）

世の罪のために死なれたお方は、定められた時間、墓の中にとどまるべきであった。このお方は天の裁判による囚人として、石牢におられた。キリストは宇宙のさばき主に対して責任を負っておられた。このお方は世の罪を負っておられ、御父だけがこのお方を釈放することがおできになった。（同上 1114）

キリストはわたしたちと利害を一つにしてくださり、死の一撃を受けるためにご自分の胸をはだけ、人の罪と罰を受け、人間のために神に対し完全な犠牲を捧げてくださった。この贖罪によりキリストは人間に完全な義と完全な救いを提供する力を持っておられる。キリストを個人的な救い主として信じる者は誰でも滅びることなく、永遠の命を得る。（同上 7 巻 925）

人の贖いの価は支払われたので人の持ち物はすべて、また彼そのものがキリストの血をふりかけられ、神に捧げられるべきである。なぜならすべてのものは神のものだからである。（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1900 年 8 月 1 日）

イエスの復活と新しい生命

「盗人が来るのは、盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするためにほかならない。わたしがきたのは、羊に命を得させ、豊かに得させるためである。」（ヨハネ 10:10）

イエスのよみがえりは、主にあって眠るすべての人の最後のよみがえりの型であった。（各時代の希望下巻 341）

「生命を捨てるのはそれを再び得るためである」と言われたお方が墓からご自身の内にある生命へと移られた。人性は死なれたが神性は死なれなかった。ご自分の神性により、キリストは死の絆を断ち切る力を持っておられた。このお方はみ心にかなった者をよみがえらせるため、ご自身の内に生命を持っていると宣言なさる。……

キリストは生命の泉であり、源であられる。不死であり、光といのちの中に住んでおられるこのお方だけが「わたしには、命を捨てる力があり、またそれを受ける力もある」と仰せになることができた。……

キリストは不死を与える権利を授けられていた。キリストは人性のうちにあってお捨てになった生命を、ふたたびとりあげて人類にお与えになる。このお方は「わたしがきたのは、羊に命を得させ、豊かに得させるためである」と言われる。（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E.G. ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]5 巻 1113, 1114）

キリストは生命そのものであられる。死の力を持っていたサタンを滅ぼすために死を通り過ぎられたこのお方は、すべての活力の源であられる。ギレアデには乳香があり、そこに医者であられるお方がおられる。わたしたちが生命を得るようにと、キリストはこの上なく屈辱的な状況の下で苦悩に満ちた死に耐えられた。このお方は死を滅ぼすために、ご自身の尊い生命を捨てられた。しかしキリストは墓からよみがえられた。一度はお捨てになった生命をまた取り上げられたキリストにお目にかかるためやってきた何万もの天使たちは、キリストがヨセフの墓の上に立って「わたしはよみがえりであり、命である」と宣言なさったとき、勝利の喜びにあふれたみ声を聞いた。（教会への証 6 巻 230）

わたしたちの主の復活と昇天は、神の聖徒たちが死と墓に勝利し、小羊の血で自分たちの品性の衣を洗い、それを白くする者には天国が開かれているという確かな証拠である。イエスは人類の代表者として、御父のもとに昇られたので、神はご自分のみかたちを反映する人々にご自分の栄光をながめ、ご自分と共にあずからせてくださる。（教会への証 9 巻 286）

第三位の神

「主イエス・キリストの恵みと、神の愛と、聖霊の交わりとが、あなたがた一同と共にあるように。」（コリント第二 13:13）

神が個性あるお方であられるように聖霊もまた……個性あるお方であられることをわたしたちは認識する必要がある。……

聖霊は個性を持ったお方である。さもなければ、わたしたちが神の子であるということをわたしたちの霊に、またわたしたちの霊と共に証してくださることはおできにならないはずである。聖霊はまた聖なるお方であらねばならない。さもなければ、神のみ思いに隠されている秘密をさぐり出すのは不可能なはずである。（伝道 616, 617）

聖霊は、自由に働いておられる独立したお方である。天におられる神は、御霊をみ心にかなうようにお用いになる。それゆえ、人間の気持や人間の判断や人間の方法でその働きに制限をもうけたり、聖霊が働かれる通路を指示したりすることは、風に向かって「わたしはお前にある方向に吹くように命令する。またこういう方法で吹くように命令する」と言うよりももっと不可能なことである。（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1910 年 3 月 8 日）

はじめから、神は堕落した人類を救うご計画を完成するために人々を用い、聖霊によって働いてこられた。……父祖たちをささえ、カレブやヨシュアに信仰と勇気を与え、使徒の教会の働きを効果的なものにした同じ力が、後につづくすべての時代に神の忠実な子らをささえてきた。（患難から栄光へ上巻 50）

聖霊は彼〔イエス〕がご自分の民を高めるために天父に嘆願することがおできになるすべての賜物の中の最高のものであった。御霊は人を生まれかわらせる働きをするものとして与えられるのであって、これがなければ、キリストの犠牲は何の役にもたたなかったであろう。悪の力は幾世紀にもわたって強められ、人々がこのサタンのとりことして屈服していることは驚くばかりであった。罪に抵抗してこれに打ち勝つ唯一の道は、制限された力ではなく天来の満ち足りた力をもってこられる第三位の神、聖霊の偉大な働きを通してである。（各時代の希望下巻 156）

聖霊は人の魂に神のみ姿を復元するための有能な助け手であられる。（両親、教師、生徒への勧告 67）

あなたへの神の賜物

「すると、ペテロが答えた、『悔い改めなさい。そして、あなたがたひとりびとりが罪のゆるしを得るために、イエス・キリストのみ名によって、バプテスマを受けなさい。そうすれば、あなたがたは聖霊の賜物を受けるであろう。』」（使徒行伝2:38）

キリストは聖霊の賜物をご自分の教会に約束されたが、その約束は、最初の弟子たちと同じようにまたわれわれのものである。（各時代の希望下巻 158）

弟子たちがペンテコステの日に祈ったように、わたしたちも聖霊の降下を熱心に祈り求めるべきである。そのときに彼らが聖霊をそれほど必要としたのであれば、今日のわたしたちにはもっと必要である。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1896 年 8 月 25 日）

わたしたちが受ける聖霊の量は、それを求めるわたしたちの願いと信仰の量に比例し、またわたしたちに与えられている光と知識を使用する量による。（同上5月5日）

主の約束を信じ、これをわがものと主張する人は多い。彼らはキリストについて語り、聖霊について語るが、何の益も受けない。彼らは天来の力によってみちびかれ、支配してもらうために魂をあけわたそうとはしない。われわれが聖霊を用いることはできない。みたまがわれわれを用いてくださるのである。みたまを通して、神の民のうちに働き、「その願いを起こさせ、かつ実現に至らせ」てくださるのである（ピリピ 2:13）。しかし多くの者はこれに従おうとしない。彼らは自分で自分を支配したいのである。これが、天の賜物を受けない理由である。みたまは、へりくだった心で神に仕え、そのみちびきとめぐみを待ち望むものにだけ与えられる。神の力は彼らが求め、受けるのを待っている。この約束された祝福を信仰によって求めるときに、ほかの祝福は次々と与えられる。それはキリストの恵みの富にしたがって与えられるのであって、主はどの魂にもその受ける能力にしたがっていつでも与えてくださる。（各時代の希望下巻 158）

聖霊が心に住まわれるとき、それは人が自分自身の品性の欠点を見るように導き、また周りの人の弱さを思いやり、自分が許されたいと願うように他の人を許すように導かれる。この人はキリストのように同情深く親切でキリストに似た者となる。（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E.G. ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]2 巻 1038）

聖霊は愛、喜び、平和、力、そして慰めを与える。聖霊は永遠に続く生命へと流れでる水の井戸のようなものである。その祝福はすべての者に惜しみなく与えられる。（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1892 年 8 月 22 日）

神秘的で優しいご臨在

「風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞くが、それがどこからきて、どこへ行くかは知らない。霊から生まれる者もみな、それと同じである。」（ヨハネ 3:8）

神の偉大さはわたしたちには理解できない。「主のみくらは天にある」（詩篇 11:4）。しかし聖霊によって神はどこにでもおられる。神はご自分のみ手の業すべてに熟知しておられ、また個人的な関心を持っておられる。……

知ったり、愛したりする能力を持った人間の魂を創造なさった方は……すべてのものの造り主であられた。それゆえ、心の貧しい者の願いを放っておかれるような方ではない。不可解な原則や個人的に関係のない存在や単なる抽像観念は人生で悲しみや痛みにもがいている人間の必要や願いを満たすことはできない。あわれみがなく、助けを求める声に耳をかさない法律や権力に信頼を置くのでは満たされない。わたしたちを支え、わたしたちを憐れんで下さる永遠の友であられる方の全能の腕を知る必要がある。わたしたちは温かい手を握りしめ、優しさにあふれたみ心に信頼する必要がある。そして、神はみ言葉の中でご自身をそのように表わして下さっているのである。（教育 132,133）

霊的な事柄は霊的に見分けられる。肉の思いはこのような神秘を理解できない。……世的な知恵は人の心に対する神の御霊の影響を科学的な原則で説明しようとしている。この方向にわずかでも進むと無神論という迷路に魂を導いてしまう。聖書の宗教は単純に信心の奥義であって、人間の心はそれを充分に理解することはできず、また再生されていない心では全く理解できないものである。（教会への証 4 巻 585）

聖霊の性質は神秘である。人間はそれについて説明することができない。なぜなら、主がそれを彼らに明らかにしておられないからである。空想的な考えを持った人々は聖霊について書かれた聖句を集めて、人間的な解釈をつくり上げるかもしれないが、そのような見解を受け入れたところで教会を強化することにはならない。余りに深いので人間には理解できないこのような神秘については、沈黙が金である。（患難から栄光へ上巻 48）

贖いにおける働き手

「そして、希望は失望に終わることはない。なぜなら、わたしたちに賜っている聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからである。」（ローマ 5:5）

心は生まれながらにして悪く、「だれが汚れたもののうちから清いものを出すことができようか、ひとりもいない」のである（ヨブ 14:4）。どんな人間の発明によっても、罪を犯している魂を救う道をみいだすことはできない。……流れが清くなるには、心の泉がきよめられなければならない。自分で律法を守る行為によって天国にはいろうとするものは不可能なことを試みているのである。単に律法的な宗教、敬虔の形だけを持っている者には安全がない。クリスチャンの生活は古いものを修正したり改良したりすることではなくて、性質が生まれ変わることである。自我と罪に対する死があり、まったく新しいいのちがある。この変化は聖霊の効果的な働きによってのみ行われる。（各時代の希望上巻 201,202）

世のあがない主によって達成されたことに効果を与えるのはみたまである。心が清くされるのはみたまによってである。みたまによって、信者は神の性質にあずかる者となる。すべての先天的後天的な悪の傾向に打ち勝つ天来の力として、またご自身の品性を教会に印象づける天来の力として、キリストはみたまをお与えになった。（同上下巻 156, 157）

風は目には見えないが、風の通った結果は、はっきりと見たり感じたりすることができる。聖霊が人の心に働くのも、ちょうどそのとおりである。人の目には見えないが、再創造の力が魂に新しいいのちを与え、神のみかたちに従って新しい人を造るのである。（キリストへの道 73, 74）

思慮の浅い、気まぐれな者がまじめになる。かたくなな者が自分の罪を悔い改め、不信仰な者が信心深くなる。賭け事の好きな者、大酒飲み、不道徳な者が落ち着き、節度ある純潔な者となる。反抗的な者、強情な者が柔和でキリストのような品性になる。わたしたちがその品性の内にこのような変化を見るとき、神の改心させる力が人全体をお変えになったということを確信することができる。（伝道 288）

単純に子供のような信仰をもってキリストを見上げる者は、聖霊の働きを通して、神のご品性にあずかる者となる。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1892 年 11 月 29 日）

助け主にして教師

「しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってつかわされる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、またわたしが話しておいたことを、ことごとく思い起こさせるであろう。」（ヨハネ 14:26）

聖霊はキリストの代表者であるが、人間の個性を備えておられないので、これに拘束されない。キリストは、人性の制約を受けておられたので、どこへでもみずから行かれるわけにいかなかった。だから、キリストが父のみもとに行かれて、地上におけるご自分の後継者として聖霊をお送りになることは彼らの利益であった。そうすれば、場所やキリストとの個人的接触などによる特典はだれにもないのであった。みたまによって、救い主はだれにでも近づかれるのであった。……

どんな時にも、どんな場所でも、どんな悲しみにも、どんな苦しみにも、前途が暗く将来が困難に見えて無力と孤独を感じるときにも、信仰の祈りに答えて、助け主が送られる。この世のすべての友から離れるような事情が起るかもしれない。しかしどんな事情もどんな距離もわれわれを天の助け主から離れさせることはできない。どこにいようとも、どこへ行こうとも、主はいつもわれわれの右にあって、力づけ、助け、ささえ、励まされる。……

助け主は「真理の御霊」と呼ばれている。助け主の働きは真理を明らかにし、これを守ることである。助け主はまず真理のみたまとして心に住み、こうして助け主となられる。真理には慰めと平安があるが、虚偽には真の平安も慰めもない。……聖霊は、聖書を通して心に語り、真理を心に印象づける。（各時代の希望下巻 153 ～ 156）

神の御霊の影響のもとにある者は、熱狂的ではなく、静かでしっかりとしており、思いや言葉や行為において出すぎない。紛らわしい教義の混乱のさなかにあって神の御霊は真理の証拠を拒んでいない人々にとって導きとなりまた盾となる。（福音宣伝社 289）

神の霊のみちびきの下にない男女や子供は、サタンの魔法の影響下にあって、しかも自分のことばや行為によって他の者まで真理の道からひきはなす。（青年への使命 276）

内住される御霊

「神の戒めを守る人は、神におり、神もまたその人にいます。そして、神がわたしたちのうちにいますことは、神がわたしたちに賜った御霊によって知るのである。」（ヨハネ第一 3:24）

聖霊は、魂の中の霊的生命の呼吸である。みたまを与えることはキリストのいのちを与えることである。それは、受ける者にキリストの属性を吹き込む。（各時代の希望下巻 342, 343）

聖霊は何一つ誇り得るもののない心に入って来られる。イエスの愛は自己が明け渡されることにより空いた所を満たして下さる。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1896 年 6 月 2 日）

キリストの真の品性を見、キリストを心に受け入れる者は、永遠のいのちを持つ。キリストがわれわれのうちに住まわれるのは、みたまを通してであり、神のみたまが信仰によって心に受け入れられるときに、それは永遠のいのちの始まりである。（各時代の希望中巻 136）

わたしたちはキリストに直接お目にかかったり、話しかけたりすることはないが、聖霊はどこにいてもわたしたちのすぐ近くにおられる。このお方はキリストを受け入れるすべての者を通して、またすべての者の内で働かれる。御霊が自分の内に宿っておられることを知っている者は、御霊の実、すなわち、愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、信仰を表わす。（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E.G. ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]6 巻 1112）

聖霊は絶えず信じる者と共にいてくださる。助け主がわたしたちと共にいてくださるという事実をわたしたちはもっと注意深く考える必要がある。もしもわたしたちがこの真理を個人的に理解するなら、決して自分が孤独であると感じることはない。敵に激しく攻撃された時も、誘惑に陥った時もわたしたちは神に信頼して自分たちの信仰をゆだねるべきである。なぜなら、わたしたちには、戦いの場に一人で放っておかれることは決してないという確かな誓いの言葉があるからである。罪の許しを受けた魂はみな、神の御目に尊い、世界全体よりも尊いのである。この魂は無限の価で買われており、キリストはご自身がそのために死なれた魂をお捨てになることは決してないのである。（ﾕｰｽ・ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ 1894 年 12 月 13 日）

キリストは聖霊によって表わされている。この御霊が正しく認められ、聖霊に支配されている者が、自分に吹き込まれた力（エネルギー）を他の人々に伝えるとき、すべてを点火するコードが接触する。神の資源がどれほど無限であるかを、わたしたちがすべて理解できると良いのに。（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E.G. ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]6 巻 1053）

御霊を悲しませてはいけない

「神の聖霊を悲しませてはいけない。あなたがたは、あがないの日のために、聖霊の証印を受けたのである。」（エペソ 4:30）

良心は人の激しい感情の葛藤のさなかに聞こえる神の御声であって、このみ声に抵抗すると神の御霊は悲しまれる。（教会への証 5 巻 120）

人は神の御霊を抑える力を持っている。選びの力は彼らに委ねられている。人は行動の自由が許されている。彼らはわたしたちのあがない主のみ名と恵みを通して従順になることもできるし、あるいは不従順となって、その結果を自覚することもできる。（福音宣伝者 174）

聖霊に対する冒涜の罪は、突発的な言葉や行動にあるのではない。それは、真理や証拠に対するゆるがない断固とした抵抗によるのである。（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E.G. ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]5 巻 1093）

人が救われないようにと神が命令を出されるのではない。神は目の前に見通すことのできない闇を投げかけたりはなさらない。そうではなく、人が最初に神の御霊の働きに抵抗するのであり、一度抵抗すると二度目はそれほど抵抗するのが難しくない。三度目はさらに容易になり、四度目ははるかにたやすい。その後、不信と反抗の種から生じた収穫を刈り取ることになる。ああ、罪深い放縦という収穫とは、なんという刈り入れの準備をしていることか。……

一方み光を心に抱くと、心に抱く一つ一つの光線は、光の収穫を実らせる。一度誘惑に抵抗すると、二度目にはもっと堅く抵抗する力が与えられ、自己に対して得た一つ一つのあらたな勝利は、より高く、より高貴な勝利へと道を平らかにする。一つ一つの勝利は、永遠の生命のために蒔かれる種である。（教会への証 120）

神はだれをも滅ぼされない。罪人が悔い改めないことによって、自らを滅ぼしているのである。（同上）

だれも聖霊に対する罪を何か神秘的で説明できないことのようにみなす必要はない。聖霊に対する罪とは、悔い改めへの導きに応じることを頑固に拒絶する罪である。（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E.G. ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]5 巻 1093）

キリストへの魂の屈服を通してでなければ、より高い生活への希望……はない。（キリストへの道 37）

神は愛である

「愛さない者は、神を知らない。神は愛である。」（ヨハネ第一 4:8）

「神は愛である」（ヨハネ第一 4:16）。神の性質、神の律法は愛である。それは今までもそうであったし、これからも同じである。……創造の力が現されているものは、すべて、神の無限の愛の表現である。（人類のあけぼの上巻 1）

夏と冬、種まき時と刈り入れ時、昼と夜が規則正しくめぐるのも、神の力によるのである。花が咲き、葉が繁り、草木が繁茂するのは神のことばによるのである。わたしたちのもっている良いものは、日の光も、雨も、食べ物も、いのちの一瞬一瞬も、すべて神の愛の賜物である。（祝福の山 92）

まず、反逆が天で始まったときから、ついに、それがくつがえされて、罪が完全に根絶されるまでの善悪の大争闘の歴史もまた、神の不変の愛の実証である。（人類のあけぼの上巻 2）

だがキリストという賜物が天父のみこころをあらわしている。（各時代の希望上巻 46）

神はわたしたちの世界に、ひとり子という素晴らしい賜物を与えて下さった。この行為に照らして、他の諸世界の住民たちは、神が人の子らへのご自分の愛を示すためになさった以上のことを神はなさることがおできになったはずだと決して言うことができないのであった。神はすべての計算を度外視する犠牲を払われた。（レビュー・アンド・ヘラルド 1907 年 1 月 3 日）

幾千もの人々が神と神の特性に関する間違った概念を持っている。彼らは確かにバアルの僕がそうであったように、偽りの神に仕えている。わたしたちは、神のみ言葉のうちに、キリストのうちに、自然のうちに表わされているがままの真の神を礼拝しているであろうか。それとも神の代わりに何か哲学的な偶像をあがめているであろうか。神は真理の神であられる。正義と恵みが神の御座の特質である。このお方は愛の神であり、同情と優しい憐れみの神である。このように、神はわたしたちの救い主である御子のうちに表わされている。このお方は忍耐づよく、寛容な神であられる。もしわたしたちがあがめているお方、また同化したいと求めているそのご品性がこのようなお方であれば、わたしたちは真の神を礼拝しているのである。（教会への証 5 巻 174）

人をかたよりみないかた

「そこでペテロは口を開いて言った、『神は人をかたよりみないかたで、神を敬い義を行う者はどの国民でも受けいれて下さることが、ほんとうによくわかってきました。」（使徒行伝 10:34, 35）

神は人をかたよりみないかたである。……光を持ちながら、これに従わないで、神のご要求を無視する者は、自分たちの祝福が呪いに変わり、また自分たちの憐れみが裁きに変わることに気づくであろう。（教会への証 3 巻 172）

神はどの罪もみな同じ大きさだとはみなされない。神の判断においても、人間と同じように罪の度合いがある。しかし、人の目にどんなに小さく見える悪事でも、神の前には決して小さい罪というものはない。人の判断はかたよって不完全なものであるが、神はすべてをそのあるがままに量られる。たとえば飲酒家は軽蔑されて、とても天国には行かれないと言われるがその反面、高慢、我欲、貪欲などは責められず、見過ごしにされがちである。しかし神は、こうした罪をとくに嫌われるのである。というのは、これは神のあわれみ深い品性に反し、堕落しない宇宙に満ちている無我の愛の精神に反するからである。……

罪がいかに恐るべきものであるかは、十字架の光に照らされてはじめてわかるのである。神はあわれみ深いお方なので、罪人をお捨てにはならないと説く者があれば、そういう人はカルバリーの十字架を見るべきである。というのは、人の救われる方法、つまり人類が汚れた罪の力からのがれ、聖なる者との交わりに立ち帰り、ふたたび霊的生活にあずかる者となるには、キリスト自ら不従順の罪を負い、罪人のかわりにお苦しみになるよりほかに方法がなかった。神のみ子の愛と苦難と死はみな、罪がいかに恐ろしいものであるかをあかしし、キリストへの魂の屈服よりほかには、その罪の力よりのがれることも、向上した生活への希望もないことを宣言している。（キリストへの道 34 ～ 37）

魂が罪の低地から引き上げられて、ことごとくいつくしみ深さと憐れみと愛のお方でありながら、罪人を決して放免することはない神を熟考するようにしなさい。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1889 年 3 月 19 日）

無限に知恵があり、いつくしみ深い

「主は恵み深く、なやみの日の要害である。彼はご自分を避け所とする者を知っておられる。」（ナホム 1:7）

神はすべての知恵の源であられる。神は無限に知恵があり、正しく、かつ善であられる。キリストから離れては、かつて生きた人の中でもっとも知恵のある者も、このお方を理解することはできない。……もし人間が一瞬でも限られた視界を越えて見ることができるなら、また永遠のお方を一目でも垣間見ることができるなら、みな誇りを口にすることはなくなるであろう。この原子にすぎない小さな世界に住んでいる人間は有限である。神はご自分の戒めに従順で、ご自身の栄光にしたがって導かれる諸世界を数限りなく持っておられる。（両親、教師そして生徒への勧告 66）

この宇宙のどこであっても、全能なるお方のご存知ないことは起り得ない。人生のどんな些細な出来事もわたしたちの造り主に知られずにはいない。サタンが休みなく悪を企む一方、わたしたちの主なる神は、すべてを支配なさり、それがご自分の従順な信頼する子らを害することがないようになさる。海の荒れ狂う波を制するその同じ力が、反逆や犯罪の力を防止することができる。神は荒波に対して言われたように、反逆する力に対し、「ここまで来てもよい、越えてはならぬ」と言われる。

被造物に対する神の取り扱いをたどるとき、わたしたちは謙遜と信仰の教訓を、学ぶことができないのであろうか。人の子らがあまりにも自尊心とむなしい栄光でいっぱいであるため、主は彼らのためにほとんど何もなさることができない。彼らは自分を高め、自分の強さや学識、また知恵を誇張する。彼らが神だけを信頼することを学ぶように、神は彼らの希望を砕き、彼らの計画を挫折させる必要がある。わたしたちの力は神からきている。神がわたしたちに与えて下さっている力がなくては、わたしたちは何事もすることができない。神にささえられていない男や女や子供がいるだろうか。神が占めておられない孤独な場所がどこにあるだろうか。神以外のだれかが供給することのできる欠乏がどこかにあるだろうか。（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E.G. ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]3 巻 1141）

わたしたちは幼子のように神について無知であるが、幼子のように神を愛し、神に従うことができる。神のご性質や大権に関して推測をする代わりに、神が語って下さったみ言葉を心にとめよう。「静まって、わたしこそ神であることを知れ」（詩篇 46:10）。（教会への証 8 巻 279）

常にわたしたちと共におられるお方

「わたしはどこへ行って、あなたのみたまを離れましょうか。わたしはどこへ行って、あなたのみ前をのがれましょうか。わたしが天にのぼっても、あなたはそこにおられます。わたしが陰府に床を設けても、あなたはそこにおられます。」（詩篇139:7, 8）

詩篇記者は無限のお方のご臨在を、宇宙全体に行き渡っているものとして表現している。「わたしが天にのぼっても、あなたはそこにおられます。わたしが陰府に床を設けても、あなたはそこにおられます」わたしたちは神がおられない隔絶された場所を見つけることはできない。（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E.G. ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]3 巻 1153, 1154）

全能にして主なる神、諸天において統治しておられるお方が、「わたしはあなたと共にいる」と宣言される。神はご自分の民に対し、従順な者はご自分のみ名に栄光を帰すために、彼らを祝福することのできる立場にいることを保証しておられる。……神は自己に仕えるよりも神に仕えることを優先する者すべてに対し、いと近き助けであられる。（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1907 年 12 月 12 日）

神は、手で造った神殿にお住みにはならないが、神の臨在によって神の民の集会を尊ばれる。神は、彼らが神を求め、罪を認め、互いのために祈るために集まるときに、聖霊によって彼らに会うと約束されたのである。（国と指導者上巻 25）

キリストの昇天なさったときも、かれはなお共におられたという感じを弟子たちはもった。それは愛と光にみちた個人的な存在であった。……

キリストは聖霊を通してつねにその子らの心のうちに住まわれるのである。かれらは、この地上に主がおられたときよりいっそう近く主と一つになることができた。内住なさるキリストの光、愛、そして力が弟子たちから輝き出たので、人々は驚き「不思議に思った。そして彼らがイエスと共にいた者であること」（使徒行伝 4:13）を知るようになったのである。キリストは最初の弟子たちに対するのと全く同じように、今日も、その子らにとって同じ存在になることを望んでおられる。（キリストへの道 99 ～ 102）

わたしたちは主にあって、また主の御力によって強くなれる。キリストを受け入れることにより、わたしたちは力でおおわれる。心の内に住んで下さる救い主がご自分の力をわたしたちのものとして下さる。……心のうちにあるキリストのご臨在は、いのちを与える力であり、全身を強める。（教会への証 7 巻 71）

キリストは遠くにおられると決して思ってはならない。彼はいつもそば近くにおられる。彼のやさしいご臨在は、あなたを取りかこんでいる。（ﾐﾆｽﾄﾘｰ・ｵﾌﾞ・ﾋｰﾘﾝｸﾞ 57）

このお方の優しい愛に満ちた保護

「神はあなたがたをかえりみていて下さるのであるから、自分の思いわずらいを、いっさい神にゆだねるがよい。」（ペテロ第一 5:7）

神の保護はいっさいの被造物の上に及ぶものである。神はすべてのものを区別なく愛されるが、生涯に最も重い重荷を負わされている人を一番優しく憐れまれる。神の子は試練と困難にあわねばならないが、社会が与えてくれなくても、神は最も益になるようにすべてを補ってくださることを覚え、快活な精神をもって自分の分を受けるべきである。

謙遜な祈りに答えて、神が力と知恵とを示されるのは、わたしたちが困難な立場にたつときである。祈りを聞き、祈りに答えられる神に信頼なさい。どんな危機にも、神ご自身があなたを助けることのできるものであることをお示しになるであろう。人間を創造し、驚くべき肉体と知能と霊の力をお授けになった神は、ご自分がお与えになった生命を保持するのに必要なものをお与えにならないはずがない。神の言葉、すなわち生命の木の実をお与えになった神は、困っている神の子に食物を手に入れる知識をさずけずにはおかれない。（ﾐﾆｽﾄﾘｰ・ｵﾌﾞ・ﾋｰﾘﾝｸﾞ 176）

ある人たちは、いつも悪いことを予想したり、実際に困難なことがあると、それを大げさに考えたりするので、彼らの目は、感謝しなければならない多くの恵みに対して盲目になっている。彼らは、困難に会うとき、唯一の源であられる神に助けを求めようとしないで、不安とつぶやきの心を起こし、かえって神から離れてしまうのである。

われわれは、このように不信であってよいだろうか。どうして感謝しなかったり、信頼しなかったりしてよいだろうか。イエスはわれわれの友である。全天はわれわれの幸福に関心を持っている。われわれの心配と恐れは神の聖霊を悲しませる。いらだたせ、疲れさせるだけで、試みに耐える助けとならない心配をしてはならない。……主は重荷を負って疲れている者に、「すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう」と招いておられる（マタイ 11:28）。自分自身の首にかけた心配とこの世の苦労というくびきをはずしなさい。そして、「わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう」（同 11:29）。心配事をすべて神にまかせて、神のうちに休みと平安をみいだすことができるのである。（人類のあけぼの上巻 338, 339）

神の救うみ摂理

「神は、神を愛する者たち、すなわち、ご計画に従って召された者たちと共に働いて、万事を益となるようにして下さることを、わたしたちは知っている。」（ローマ8:28）

わたしたちが試練に耐えるように召されている事実は、主イエスがわたしたちの中に発達させようとお望みになっている、尊いものがあることを認められていることを示している。もし、わたしたちの中に神のみ名の誉となるものが一つもないとわかれば、わたしたちをりっぱなものにする時間を費やされないであろう。神は無価値な石を神の炉の中に投げ入れられることはない。神が精錬なさるのは価値のある鉱石である。（ﾐﾆｽﾄﾘｰ・ｵﾌﾞ・ﾋｰﾘﾝｸﾞ 455）

もしも、神の子供が最初から事の終局を見ることができ、神と共に働く者として果たしている目的の栄光を認めることができたならば、神が導かれる道は自分たちが導いてほしいと望んでいる道にほかならないことがわかる。（同上 463）

神のみ摂理の内でわたしたちを当惑させているすべてのことはきたるべき世界において明らかにされている。理解しがたい事柄はその時、説明がつくであろう。恵みの神秘がわたしたちの前に明らかになる。わたしたちの限りある心がただ混乱と破られた約束としか思えなかったところに、わたしたちは最も完全な、この上なく美しい調和を見るであろう。最もつらいと思われた経験を無限の愛が支配しておられることをわたしたちは知るのである。（教会への証 9 巻 286）

キリストのみたまに満たされた人は、キリストのうちに宿っている。彼をねらう打撃は、ご臨在をもって囲んでいてくださるキリストに当たる。彼に起ることはみなキリストを経てくるのである。キリストが彼の守り手であるから、彼は自分で悪に手向かう必要がない。主のゆるしがなければ、何物も彼に触れることはできない。そして許されることはみな、相共に働いて彼を愛する者たちの益となるのである。（祝福の山 88）

天の父はわたしたちが想像さえできぬ多くの道を備えられている。神の働きを最も高いものとする法則を受け入れる者は、いろいろな困難が消滅し、平らな道が開けていくのを発見する。（ﾐﾆｽﾄﾘｰ・ｵﾌﾞ・ﾋｰﾘﾝｸﾞ 465）

「その聖徒たちの足を守られる」神の導きに幼児のようにたよるのがよい（サムエル上 2:9）。（同上 463）

自分の道を神に任せるとき、神はわたしたちの歩みを導かれるのである。（同上）

すべての人間を愛される方

「こういうわけで、わたしはひざをかがめて、天上にあり地上にあって『父』と呼ばれているあらゆるものの源なる父に祈る。」（エペソ 3:14, 15）

神の愛を知る時、利己主義は捨てられる。神を父と呼ぶことによって、わたしたちは神のすべての子らをわたしたちの兄弟と認めるのである。わたしたちはみな人類という大きな織物の一部であり、同じ家族の一員である。（祝福の山 131）

神は国籍、人種、または階級などの差別をお認めにならない。彼はすべての人類の創造主であられる。すべての人々は、創造によって一つの家族なのである。そしてすべての人々は、贖罪によって一つなのである。すべての魂が自由に神に近づくことができるように、キリストはすべての差別の壁を取り除き、神殿のすべての部屋を広く開けるために来られた。（国と指導者上巻 337）

神の恵みと愛の賜物は空気や光や地を潤す雨のように制限のないものであることを示すためにキリストは来てくださった。（福音宣伝者 46）

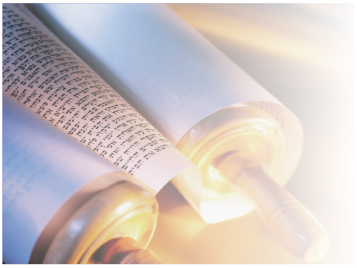
彼の愛は広く深く十分に満ちあふれていて、どんなところにでも滲透していくのである。それは、サタンの影響を受けてその欺瞞に惑わされた人々を引き上げて、約束の虹に囲まれている神のみ座近くに彼らを置くのである。（国と指導者上巻 337）

神はわたしたちのみ父であり統治者であられる。……天で支配している原則は地でも支配すべきであり、天使たちを元気づけている愛と同じ愛、天国に行き渡っている純潔と神聖なものが、できる限り地上で再生されるべきである。（教会への証 4 巻 268）

あなたがたが神を父と呼ぶならば、あなたがたは、自分が神の子であることを認め、神の知恵に導かれ、すべてのことにおいて服従することを承認したのである。それは神の愛が変わらないものであることを悟ったからである。あなたがたは、自分の人生に対する神のご計画を受け入れる。神の子として、あなたがたは、神の名誉、神のご性格、神の家族、神の働きをあなたの最高の関心の対象とするのである。父なる神および神の家族のすべての者とあなたがたとの関係を認め尊ぶことはあなたがたの喜びとなってくる。神の栄光となり、神の家族の幸福に役立つことならば、取るに足りない小さな行為であっても喜んでするようになるのである。（祝福の山 131, 132）

研究 10

最後の出来事



サタンの驚くべき活動
降神術（心霊術）

Marvelous working of Satan
Spiritualism

今回は「サタンの驚くべき活動」あるいは「心霊術」について啓示されたみ言葉を研究してみましょう。第三天使が神の民を天の倉に入れるために最後の印する働きをしている間、サタンは降神術（心霊術）を通して彼自身の民を束ねているということが次の言葉によってわかります。「しかし、驚くには及ばない。サタンも光の天使に偽装するのだから」（第二コリント 11:14）

「今や、サタンはこの印する働きのときに当たり、あらゆる手段を用いて神の民の心を現代の真理から引き離し、彼らを迷わせようとしている。…このようなサタンの手下たちのあるものは、聖徒たちのある人々、すなわち、彼らがサタン的力によって欺いて、真理から引き離すことができなかった人々の体に影響を及ぼしていた。ああ、すべてのものがこのことを、神がわたしに示されたように見ることができ、サタンの策略をもっと知って警戒するようになってほしいと思う」（初代文集 107, 108）

「わたしは、この惑わしが、速やかに広がっていくのを見た。電光のような速度で走っている列車が、わたしに示された。天使は、わたしに注意して見るように命じた。わたしは列車にじっと目を注いだ。それには、全世界の人が乗っていて、ひとりも残っていないようであった。『彼らは、束ねられて、燃えるばかりになっている』と天使が言った」（初代文集 176）。

1．降神術（心霊術）とは何か？

「人々があなたがたにむかって『さえずるように、ささやくように語る巫子および魔術者に求めよ』という時、民は自分たちの神に求むべきではないか。生け

る者のために死んだ者に求めるであろうか。ただ律法と証とに求めよ。彼らがこれらに従って語らないならば、それは、彼らのうちに光がないからである」（イザヤ 8:19, 20 英語訳）。

「心霊術のいちばん根底にある教えは、聖書の最も明瞭な言葉に相反するものである…。しかし心霊術は、幾十万、いや幾百万の信者をもち、科学者たちの仲間にも入り込み、諸教会に侵入し、議会の好意を得、王室にまでも侵入している。この巨大な欺瞞は、昔罪とされ、禁じられていた口よせが、新しく変装して復活したものにすぎないのである」（各時代の大争闘下巻 310, 311）。

「心霊術は欺瞞の傑作である」（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1889 年 8 月 26 日）。

2. 心霊術を通して働くサタンの目的

「にせキリストたちや、にせ預言者たちが起って、大いなるしるしと奇跡とを行い、できれば、選民をも惑わそうとするであろう。見よ、あなたがたに前もって言っておく」（マタイ 24:24, 25）。

「もし、サタンが人々の心を曇らせて惑わし、死ぬべき人間のうちに偉大な良い働きを成し遂げるための力が先天的に備わっているという考えを抱かせることができれば、人々は、神が彼らのためにして下さることをなす力が自分たちにあると考えて、神により頼むことをやめてしまう。彼らはさらにまさった力を認めない。彼らは、神がお求めになり、また偉大で卓越した主権にふさわしい栄光を神に帰すことをしないのである。このようにして、サタンの目的は成就する。そしてサタンは、天で自らが高ぶり追放されたように、堕落した人間が自ら高ぶることに狂喜するのである。サタンは、もし人間が自ら高ぶるなら、自分自身の滅亡が確実であるのと同様に、その人の滅亡も確実であることを知っている」（教会への証一巻 294）。

「約六千年近くも続けられてきたキリストとサタンとの大争闘は、まもなく終わる。そこでサタンは、キリストが人間のためにしておられる働きを妨げる努力を倍加し、魂を彼のわなの中に捕らえておこうとする。救い主の仲保のみ働きが終わり、もはや罪のための犠牲がなくなってしまうその時まで、人々を悔い改めさせず、暗黒の中に閉じこめておくことが、サタンのめざすところである」（各時代の大争闘下巻 260）。

3. 心霊術の媒介

a　骨相学（phrenology）……教会への証一巻 296, 297

b　催眠術（mesmerism, animal magnetism）……同上

c　妖術、からくり（sleight of hand）……各時代の大争闘下巻 306
d　魔術（magic、wizard）……イザヤ 8:19（生き残る人びと 444）
e　クリスチャン精神療法（Christian science，healing cults）……福音伝道 606
f　神秘論（mysticism of theosophy）……同上
g　東洋宗教の神秘主義（mysticism of Oriental religions）……同上
h　電気治療（electric healing）……同上
i　催眠治療（magnetic healing）……同上
j　共感治療（sympathetic remedies）……国と指導者上巻 179
k　心理学（psychology）……教会への証一巻 290
l　哲学（philosophy）……教会への証一巻 297
m　空しいだましごと（vain deceit）……同上（コロサイ 2:8）
n　言い伝え（tradition of man）……同上（コロサイ 2:8）
o　世のもろもろの霊力（rudiments of the world）……同上（コロサイ 2:8）

「わたしは、特別に現代の心霊術に当てはまるものとして次の聖句を指し示された。『あなたがたは、むなしいだましごとの哲学で、人のとりこにされないように、気をつけなさい。それはキリストに従わず、世のもろもろの霊力に従う人間の言伝えに基くものにすぎない』（コロサイ 2:8）。…彼らは、自分自身のうちに大いなるわざを成し遂げる力があると考えているので、より高い力の必要を悟らないのである。彼らの原則と信仰は、『キリストに従わず、世のもろもろの霊力に従う人間の言伝えに基くものにすぎない』。イエスは、このような哲学を彼らにお教えにならなかった。このような類のものはこのかたの教えの中に全く見出すことができないのである」（教会への証一巻 297）。

「最初は異教の哲学からの借り物で、大背教の暗黒の間にキリスト教の信仰の中に混入した霊魂不滅の教えが、聖書にはっきり教えられている『死者は何事をも知らない』という真理に、取って代わった。『仕える霊であって、救いを受け継ぐべき人々に奉仕するため、つかわされた』のは、死んだ者の霊であると、多くの人々は信じるようになった。しかも、人間界に死が入る前から天使たちは存在し、人間の歴史と関係があったという聖書の証があるにもかかわらず、人々はそう信じているのである。死んでも人には意識があるという教え、特に、死んだ者の霊が生きている者に仕えるためにもどってくるという信仰は、近代心霊術（降神術）への道を備えた」（各時代の大争闘下巻 304, 305）。

4．心霊術（降神術）に対抗するために知るべきこと

「あなたの神、主が賜わる地にはいったならば、その国々の民の憎むべき事を習いおこなってはならない。あなたがたのうちに、自分のむすこ、娘を火に焼いてささげる者があってはならない。また占いをする者、卜者、易者、魔法使、呪文を唱える者、口寄せ、かんなぎ、死人に問うことをする者があってはならない。主はすべてこれらの事をする者を憎まれるからである。そしてこれらの憎むべき事のゆえにあなたの神、主は彼らをあなたの前から追い払われるのである」（申命記 18:9 ～ 12）。

a　どんな形であらわれるのか

「荒野の試みのとき、キリストの前に天の使いの輝きを装って現われることができたサタンは、人々の前に光の天使として最も魅惑的な様子をもって来る。彼は高尚なテーマを示すことによって理性に訴える。また彼は、うっとりさせるような光景をもって空想力を楽しませる。また愛と慈悲とを雄弁に描いて愛情を呼び起こす」（各時代の大争闘下巻 308）。

「サタンは人々の前に、彼らの死んだ友人たちの姿をあらわす力を持っている。その偽物は完全である。見慣れた表情や言葉や声の調子などが、信じられないほどの正確さをもって再現される」（各時代の大争闘下巻 305）。

「霊界から来たと称する者たちは、時には注意や警告を語って、それがそのとおりになることがある」（各時代の大争闘下巻 306）。

「多くの者は、愛する肉親や友人の姿をして最も危険な異端の説を唱える悪霊たちに直面するであろう。これらの来訪者たちは、われわれの最も感じやすい同情に訴え、自分の主張を支持するために奇跡を行なう」（各時代の大争闘下巻 315）。

b　何を教えるのか（ヨハネ第一 4:1 ～ 3）

c　「悪霊は、キリストの神性を否定し、創造主を自分たちと同列に置きさえする」（生き残る人びと 443）。

d　「サタンは、聖書はただの作り話にすぎない。少なくとも人類の無知な時代に適した本で、今日では軽く見過ごすか、もうすたれたものとして捨ててしまってよい本だというように、世の人々に信じさせている。…ここに全

くサタンの支配下に置かれている道がある。彼はこの手段（降神術）によって、自分の思うように世の救い主をただの人間にしている」（生き残る人びと 446）。

e 「もし、心霊術の真の性質についてほかの証拠がないとしても、霊というものが義と罪とを区別せず、キリストの最も気高く純潔な使徒たちとサタンの最も堕落したしもべたちとを区別することをしないということだけで、キリスト者たちにとっては十分であろう。どんな卑劣な人間であっても、天にいて非常にあがめられているということを示して、サタンは世の人々に向かって次のように言うのである。『あなたがたがどんなに悪くても、かまわない。神と聖書を信じようと信じまいと問題ではない。あなたがたが好むように生活しなさい。天はあなたがたの家なのだ。』心霊術者たちは、事実上次のように宣言しているのである。「すべて悪を行なうものは主の目に良く見え、かつ彼に喜ばれる。また、さばきを行なう神はどこにあるか』（マラキ 2:17）」（各時代の大争闘下巻 311）。

f 「サタンは、霊魂不滅と日曜日の神聖化という二つの重大な誤りを通して、人々を彼の欺瞞のもとに引き入れる。前者は心霊術の基礎を置き、後者はローマとの親交のきずなを作り出す。合衆国の新教徒は、率先して、心霊術と手を結ぶために淵を越えて、手を差しのべる。彼らはまた、ローマの権力と握手するために深淵を越えて手を差し出す。この三重の結合による勢力下に、アメリカはローマの例にならって良心の権利を踏みにじるのである」（各時代の大争闘下巻 350）。

g どんな人々が特別に惑わされるのか

「罪深い性質をほしいままにしたり、知っている罪を故意に抱いている者はみな、サタンの誘惑を招く。彼らは自分を神から、また神のみ使いの守護から引き離している。悪霊が彼らを惑わすときに、彼らは、守ってくれるものもなく、容易にそのえじきとなる。このようにしてサタンの力に身をゆだねる者は、自分たちの道がどこで終わるかを悟らないのである。彼らを征服してしまうと、誘惑者サタンは、ほかの者を滅びにおびきよせる手先として彼らを用いる」（各時代の大争闘下巻 313, 314）

5. なぜ人々は心霊術に惑わされるのか

人々が心霊術に惑わされる理由には様々なことが言われています。しかし、聖書はこれに対する原因を明白に示しています。「不法の者が来るのは、サタン

の働きによるのであって、あらゆる偽りの力と、しるしと、不思議と、また、あらゆる不義の惑わしとを、滅ぶべき者どもに対して行うためである。彼らが滅びるのは、自分らの救いとなるべき真理に対する愛を受け入れなかった報いである。そこで神は、彼らが偽りを信じるように、迷わす力を送り、こうして、真理を信じないで不義を喜んでいたすべての人を、さばくのである」（テサロニケ第二 2:9 ～ 12）。

私たちは、このみ言葉の中にある「真理に対する愛を受け入れなかった」、「真理を信じないで」、「不義を喜んでいた」という言葉に留意する必要があります。キリストの単純で確実なみ言葉に従わない者はだれでも、サタンの誘惑に陥ってしまいます。次の証を読んでみましょう。

「キリストの時代にはイスラエルの指導者や教師たちはサタンの働きに抵抗するのに無力だった。彼らは悪霊を抑えることのできる唯一の方法をおろそかにしていた。キリストが悪魔を征服されたのは神のみ言葉によってであった。イスラエルの指導者たちは、神のみ言葉の解説者であると自称していたが、彼らは自分たちの言い伝えを支持し、人間のつくった慣習を強制するためだけにみ言葉を研究していた。彼らは自分たちの解釈によって、み言葉を神が決して意図されなかった感情の表現として教えた。彼らの神秘的な解釈は、神が明らかに示しておられることを不明瞭にした。彼らはつまらない専門用語について論争し、最も本質的な真理を事実上否定した。こうして不信仰の種が広くまかれた。神のみ言葉はその力を奪われ、悪霊は思いのままに働いた。歴史はくりかえされている。聖書を目の前に開いて、その教えを尊ぶと告白しながら、今日多くの宗教家たちは、聖書を神のみ言葉として信じる信仰を破壊している。彼はみ言葉を批評するのに忙しく、み言葉にはっきり言われていることよりも自分自身の意見を第一にする。彼らの手によって、神のみ言葉は人を生まれ変わらせる力を失う。不信仰がはびこり、不義が盛んな理由はここにある」（各時代の希望上巻 322）。

6. どれほどの多くの人々がこの惑わしに陥るのか？（ナホム 3:1 ～ 4）

「罪深い性質をほしいままにしたり、知っている罪を故意に抱いている者はみな、サタンの誘惑を招く」（各時代の大争闘下巻 313）。

「神のみ言葉の上に信仰を堅く打ち立てていない者はみな、欺かれて敗北する」（各時代の大争闘下巻 315）。

「わたしは、この欺瞞が、急速に広がるのを見た。電光のような速度で走る列車…をみつめた。全世界がそれに乗っているように見えた」（初代文集 426, 427）。

7. 私たちの準備

「これらの起ころうとしているすべての事からのがれて、人の子の前に立つことができるように、絶えず目をさまして祈っていなさい」（ルカ 21:36）

a　現代の真理をはっきり理解すべきこと

「わたしは、聖徒たちが、現代の真理を十分に理解して、聖書を基礎にしてその真理を堅く保持しなければならないことを見た。彼らは、死の状態をよく理解しなければならない。なぜなら、悪鬼の霊が、これからも、愛する身内の者や友人の姿を装って彼らに現れ、非聖書的な教理を彼らに宣言するからである。彼らは、その全力をあげて、共感を呼び起こし、自分たちの言っていることの確証として奇跡を行なうのである。神の民は、死者は何も知らない、また、こうして現れるのは悪鬼の霊である、という聖書の真理によって、これらの霊に対抗する用意がなければならない。

われわれは、われわれの希望の根拠をよく調べなければならない。なぜなら、われわれは、聖書からその説明をしなければならないからである。この欺瞞は広がり、われわれは、真正面からそれと戦わなければならなくなる。それに対する準備がなければ、われわれはわなに陥り、打ち負かされてしまうであろう。しかし、われわれが、できる限りをつくして自分たちの分をつくし、われわれの目前に迫った争闘に対して準備をしているならば、神は、神の分をしてくださり、神の全能の腕をもってわれわれを保護してくださるのである。もし神の忠実な人々が、サタンの偽りの奇跡に欺かれ、連れ去られるくらいならば、神は、天のすべての天使をつかわして、彼らの回りに防壁を設けてくださることであろう」（初代文集 425, 426）。

b　神の強い腕をしっかり握っていなければならない

「その時が、間もなくやって来る。そして、われわれは、主の強い御腕をしっかり握っていなければならない。なぜならば、悪魔のこうした大きなしるしは、みな、神の民をあざむいて、打ち負かすためだからである。われわれは神に頼り、悪人たちが恐れるものを恐れてはならない。すなわち、彼らの恐れるものを恐れず、彼らが尊ぶものを尊ばず、真理のために大胆で勇敢でなければならない。もしわれわれの目が開かれるならば、われわれのまわりに悪天使が群がって、なんとかしてわれわれを苦しめて、滅びに陥れようとして新しい方法を考え出しているのを見ることであろう。また、われわれは、彼らの力からわれわれを保護している神の天使たちをも見ることであろ

う。神の目は、常に注意深く、イスラエルを幸福に保つために見守っている。そして、彼らが神に信頼するならば、神は、神の民を保護し救われるのである。主はせき止めた川を、そのいぶきで押し流すように、来られるからである」(初代文集 133)。

c　聖書を徹底的に知るべきこと

「心霊術者（降神術者）の数は増えつつある。彼らは、サタンがキリストに近づいたように真理を持っている人々に現われて、彼らを誘惑し、彼らがその力をあらわして、奇跡を行い、そして彼らが自分たちは神の恩寵を受けた者であり、また真理を持った民であるという証拠を示させようと誘惑するのである。…神の民にとって唯一の安全は、聖書に徹底的に精通し、死者の眠りに関して、私たちの信仰の根拠を知的に理解することである。

サタンは狡猾な敵である。また悪天使たちにとって、聖徒であれ罪人であれ、死んだ者の姿を装って、人間の目の前に現われることは難しいことではない。私たちが時代の終末に近づくほど、このような出現はもっと頻繁になり、そしてさらに仰天するような性質のものに発展していくであろう」（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1875 年 4 月 1 日）。

「聖書を熱心に研究し、真理の愛を受けたものだけが、世界をとりこにする強力な惑わしから守られる。聖書の証によって、これらの者は欺瞞者サタンの変装を見破る。すべての人に試みの時がやってくる。試みのふるいによって、ほんもののキリスト者が明らかにされる。神の民は、自分の感覚的証拠に屈しないほど、今神のみ言葉に固く立っているだろうか。こうした危機においても、彼らは聖書に、しかも聖書だけにすがりつくだろうか。サタンは、できることなら、彼らがその日に立つ備えをするのを妨げようとする。サタンは彼らの道をふさぎ、この世の宝で彼らを迷わせ、重くて疲れさせる荷を負わせて、その心をこの世の煩いでいっぱいに満たし、試みの日が盗人のように彼らを襲うようにと、事を運ぶであろう」（各時代の大争闘下巻 400）。

d　信仰の祈りが必要である

「信仰の祈りは、キリスト者の偉大な力であって、サタンに打ち勝つことが保証されている。それだから、サタンは私たちに祈る必要がないとひそかに暗示する。彼は、私たちの仲保者、イエスの名を非常に嫌う。そして私たちが熱心に助けを求めて主のみ前に来る時、サタンの全軍は危機感をいだくのである。私たちが祈りをおろそかにするとき、サタンの目的には実に好都

合なのである。なぜなら、そのとき、彼の偽りの奇跡がさらに容易に受け入れられるからである。」(福音伝道 609)。

8. 神の保護

私たちが住んでいるこの時代は、サタンが降神術を通して世のすべての人々を滅亡の列車に乗せている時であることが、はっきりわかります。「キリストの個人的な敵であるサタン」は (教会への証一巻 302)、キリストが第三天使を通してご自分の民に印を押しておられる間、自分も熱心に働いています。しかし次の証は私たちに大きな希望と勇気を与えます。

「わたしは、天使に、だれも残っていないのかと尋ねた。彼は、わたしに、反対の方向を見るように命じた。すると、わたしは、小さい群れが、狭い道を旅しているのを見た。すべての者は、真理によって束ねられ、一団となって固く結ばれているように思われた。天使は、『第三天使が、彼らを天の倉に入れるために束ねて印しているのである』と言った」(初代文集 177)。すなわち、この世とは全く反対の方向に向かって旅している少数の群れがあるということです。神の民には次のような約束のみ言葉があります。

「今われわれの前には、『地上に住む者たちをためすために、全世界に臨もうとしている試練の時』がある (黙示録 3:10)。神のみ言葉の上に信仰を堅く打ち立てていない者はみな、欺かれて敗北する。サタンは人の子らを支配するために『あらゆる不義の惑わしを行い』、彼の惑わしは絶えず増大する。しかしサタンは、ただ人々がその誘惑に自分から負けるときだけその相手を獲得することができる。真理の知識を熱心に求め、服従によって魂を清めるために励み、こうしてその戦いに備えて自分にできるところを行なっている者は、真理の神が確かな保護者であられることを見いだす。『忍耐についてのわたしの言葉をあなたが守ったから、わたしも…あなたを防ぎ守ろう』と救い主は約束しておられる (同)。主は、ご自分に頼る魂が一人でもサタンに打ち負かされるままにしておくくらいなら、ご自分の民を守るために天からすべての天使を遣わしたいと思っておられる」(各時代の大争闘下巻 315)。

「愛する兄弟姉妹がた、神の戒めとイエス・キリストの証を常に心に抱いていよう。そして、それに世の思いと煩いを閉めだしていただこう。寝る時も起きる時もこれを瞑想しよう。人の子の来られることを常に考えて生活し、すべての行動をとろう。印する時は、非常に短くやがて過ぎ去ってしまう。四人の天使が四方の風を引き止めている今こそ、われわれの召しと選びとを確かなものにする時である」(初代文集 130)。

(48 ページの続き)

のがたり）は、ハッピーエンドでした。しかし、そのお話の中に、かわいそうなはしためのハガルがいたことを覚えていることでしょう。彼女は家庭（かてい）の中で、もっとも大切な人ではなかったかもしれませんが、神様は彼女のことも―とくに彼女の女主人が彼女に親切でなかった時―こころにかけてくださいました。ハガルの赤ちゃんが生まれようとしているときに、主がハガルに何を約束して下さったかを聞いてみましょう。

「主の使はまた〔ハガル〕に言った、『あなたは、みごもっています。あなたは男の子を産むでしょう。名をイシマエルと名づけなさい。主があなたの苦しみを聞かれたのです。……』。そこで、ハガルは自分に語られた主の名を呼んで、あなたはエル・ロイ（神なるあなたはわたしをごらんになる）ですと言った。彼女が『ここでも、わたしを見ていられるかたのうしろを拝めたのか』と言ったことによる」（創世記 16:11, 13）。

ハガルは、「神なるあなたはわたしをごらんになる」と言いました。彼女はアブラハムほどよくは神様を知りませんでしたが、神様が自分をごらんになることができることは知っていました。ですから、自分を見ることのできる見えないお方によばわったのです。そしてとにかく彼女は、神様が自分をこころにかけてくださることを信（しん）じました。たしかに、わたしたちは主が彼女とそのむすこであるイシマエルにあわれみをかけてくださったことを読みます。神は彼らがほろびるままにしておかれませんでした。多大な民がイシマエルから生（しょう）じたのです。

そうです、神様はわたしたちがうれしいとき、かなしいとき、さびしいとき、あるいはこまっているとき、わたしたちを見ておられます。このお方は、わたしたちが悪いことをするように誘惑（ゆうわく）された時はいつでも、わたしたちを助けたいのです。事実、このお方は、わたしたちが対処(たいしょ)できるように十分な助（たす）けを与えようともせずに、あまりに大きな誘惑がわたしたちにおよぶことはおゆるしになりません。それがわたしたちに対する神様の約束です。このきびしい時代に、わたしたちは神様がたしかに自分たちを見ておられることをおぼえ、自分たちを見てくださっている神様によばわる必要（ひつよう）があります。「神はあなたがたをかえりみていて下さる」。「主の名は堅固（けんご）なやぐらのようだ、正しい者はその中に走りこんで救（すくい）を得る」（ペテロ第一 5:7, 箴言 18:10）。

豆乳プリン

〔プリン〕

調整豆乳	500ml
アガー（海藻からとれたゲル化剤）	大さじ 2
水	1/2 カップ
はちみつ	1/4 カップ
バニラビーンズ（お好みで）	1/2 本

〔カラメルソース〕

粗糖	1/2 カップ
水	大さじ 4

1. アガーを水に溶かし、なべにかけて沸かします。
2. 十分加熱し、アガーを溶かした後、調整豆乳とはちみつ、バニラビーンズを加えます。
3. そのまま加熱し、よく混ざったら、火を止め、容器に流し込みます。
4. 流し込んだプリンが固まった後、カラメルソースを作ります。
5. 粗糖に水を加えて、火にかけ、色がつくまでまぜて、色がついたら差し水で色止めします。
6. プリンの上にカラメルソースをかけます。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校：9:30-10:45（公開放送）

礼拝説教：11:00-12:00（公開放送）

午後の聖書研究：14:00-15:00

【公開放送】http://www.4angels.jp

聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理

お申込先：〒 350-1391　埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係

是非お申し込み下さい。

書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。

【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。

同時（どうじ）に、いたるところに

「主の目はどこにでもあって、悪人と善人とを見張っている。」（箴言 15:3）

みなさんは、同時に二つの場所にいられたら、どんなだろうと考えたことはありますか？もしかしたら、自然の中に出かけるのが楽しみなお気に入りの場所があるかもしれません。あるいは別の町にいる友だちの家かもしれません。それに、あなたには自分が住んでいる家もあります。同時に一つより多くの場所にいるのは不可能（ふかのう）ですよね？

でも、「人にはできない事も、神にはできる」（ルカ 18:27）。これはわたしたちの天父のとくべつな資質（ししつ）の一つです。このお方は不可能なことがおできになります！このお方は全能、全知、偏在のお方です。それはどういう意味でしょうか？「全」というのは、「すべて、ことごとく」ということです。「能」というのは、力づよいということで、「知」というのは、知っているということ、「在」というのは、だれかがいる場所をしめしています。ですから、神様は、ことごとく力強く、ことごとく知っておられ、そして、一つや二つの場所ではなく、聖霊（せいれい）を通して、どこでも、いたるところにいらっしゃることができます。

それだけではありません。天の聖所（せいじょ）のこのお方の御座（みざ）より、わたしたちの偉大な神は、わたしたちの生活において何がおこっているかについても、ふかい関心（かんしん）をもっておられます。このお方は、わたしたち一人ひとりをこころにかけておられます。もしあなたがこの世のたったひとりの人であったとしても、イエスはなお、ただあなただけを救（すく）うために、死んでくださったのです。

ときどき、わたしたちは神様がどれほど真剣にわたしたち一人ひとりをこころにかけてくださっているかを忘れがちです。みなさんは、アブラハムとサラ、またどのようにして彼らが年をとってからむすこのイサクが生まれたかという奇跡（きせき）を覚えていることでしょう。彼らの物語（も

（45 ページに続く）